

迎えて



津島市長
日比 一 昭

新年あけましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、台風18号により、全国各地に多大な被害が発生しました。被災地域、住民の皆様方に心よりお見舞い申し上げます。

本市では、南海トラフ巨大地震が発生した場合、震度6強の揺れや、液状化の危険度が極めて高いと予想され、これらに備えるため、昨年2月に毎月第3日曜日を「家庭防災の日」と定め、「津島市防災情報カード」を全戸配布し、家庭で防災・減災について話し合う機会を設けました。地域防災の強化に努め、防災・減災対策を一層推進してまいります。

企業誘致を進めるため、昨年4月に「津島市都市計画法に基づく開発行為等の許可の基準に関する条例」を制定し、宇治町と白浜町の2箇所を地区指定しました。企業誘致の支援策を講じるとともに、地元の商店街の活力強化に努めてまいります。

子育て中の育児不安や身体的、経済的負担の軽減を図るため、昨年4月には、東地区子育て支援センターの日曜開所を実施し、また、「つしま子育て応援券」を発行するなど子育て環境の充実に努めてまいりました。今後も、子ども達が健やか

に育つ環境の充実に取り組んでまいります。

また、昨年10月には、つしままちづくりセンターを開設しました。皆様の交流の場としてご活用いただければと思います。

市民病院では、医師・看護師・職員が一丸となって、信頼される質の高い医療を提供するとともに、地域医療を支える中核病院として、より一層改革を進め、経営の健全化に努めてまいります。

すべての方がいつまでも健康で安心して暮らせるまちづくりを進めるため、引き続き、福祉・介護の充実、健康教育、子ども基礎体力向上などに取り組んでまいります。

祭りや文化財などの歴史的・文化的な地域資源を活かしたまちづくりを進めています。いよいよ、本年の秋には、「尾張津島天王祭の車楽舟行事」が、ユネスコ無形文化遺産登録を控えております。また、第8回愛知県観光交流サミットを本市で開催します。これらを絶好の機会と捉え、本市の魅力を生かして発信してまいります。

まちづくりの主体は、市民の皆様一人ひとりであります。市民の皆様と共に考え、行動し、元気なまちづくりを進めてまいりますので、今後も市政運営にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年が、市民の皆様にとりまして、健康で幸せな年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

平成二十八年元旦



愛知県知事
大村 秀 章

あけましておめでとうございます。新たな年が、県民の皆様方にとりまして、輝かしい1年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

昨年は、リニア中央新幹線、燃料電池自動車FCV、国産初のジェット旅客機MRJという、日本の未来を創るプロジェクトが大きく動き出した年でした。中でも、11月の県営名古屋空港におけるMRJの初飛行は、半世紀ぶりとなる国産旅客機の量産という夢を乗せた飛行であり、当地域の航空宇宙産業の発展に大きな弾みとなるものと大変嬉しく思っています。

日本の中心に位置する愛知県は、日本一のTechnology（技術）とTradition（伝統）を誇る我が国の産業の中心地、まさに「Heart of JAPAN」です。今年はこの愛知の強みをさらに進化させる年にしたいと思っております。

2027年度のリニア開業を前に、名古屋駅のスーパーミナル化や鉄道・道路など社会基盤の整備を着実に進め、世界に発信する「中京大都市圏」づくりに取り組むとともに、次世代産業の育成・振興、企業立地の促進、中小企業支援、さらにはTPOP協定の発効も見据えた農林水産業の振興などにより、愛知の産業力を一

層強化してまいります。

そのためには、「人財力」の強化も重要です。4月開校の県立愛知総合工科高校を核に次代のモノづくりを担う人材の育成に取り組むほか、女性の活躍促進、高齢者や障害のある方々への支援の充実など、すべての人が輝き、活躍する愛知づくりを進めてまいります。

さらには、福祉・医療の充実、地震津波対策や交通安全対策、「環境首都あいち」に向けた取り組み、スポーツ大会や国際会議の積極的な誘致などとともに、地方分権や行財政改革の推進、東三河県庁を核とする地域振興にも力を注いでまいります。

さて、今年5月には三重県で伊勢志摩サミットが開催されます。愛知は、そのゲートウェイとして関係者の受入れに万全を期することはもちろん、これを好機と捉え、産業観光や武将観光、日本一の山車からくりなど、愛知の魅力をしつかりとPRしてまいります。

そして、8月からは、あいちトリエンナーレ、国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭と、大規模な文化行事を連続して開催する「芸術・アートの年」でもあります。多様な魅力のあふれる文化芸術作品をお楽しみいただきたいと思います。

こうした取り組みを通じ、愛知の総合力を一段と高め、「日本一元気な愛知」の実現に全力で取り組んでまいりますので、県民の皆様の一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成二十八年元旦

を 春 新



津島市議会議長
本田 雅英

新年あけましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

現在、市におきましては、政府が全国の自治体に策定を求めています「人口ビジョン」と「津島市版総合戦略」の策定が進められております。

「人口ビジョン」は、2060年を基本とする市としての人口展望を明らかにするものであり、「津島市版総合戦略」は、今後5年間の施策や目標を具体的に示すものです。

市の人口は、ここ4年間で2000人強減少いたしました。全国の多くの自治体の例に漏れず当市も人口減少の時代に突入しております。このような中、いかにしたら減少のスピードを緩やかにできるのか、その課題にしっかりと取り組んでいくための「人口ビジョン」であり、「津島市版総合戦略」であります。

今年の秋には、尾張津島天王祭のユネスコ無形文化遺産への登録を控え、来年3月には、津島市は、市制70周年を迎えます。これまで先人たちが築き、守り育ててきた有形、無形の遺産を受け継ぎながら、これからの新たな人口減少社会にしつ

かりと対応していかなければなりません。

そのためには、持続可能な財政運営を行うことが必要であり、その重要な鍵は、市民病院の健全経営にあります。

市議会におきましても、昨年、津島市民病院の経営について調査・研究することを目的に市民病院調査特別委員会を立ち上げました。市民に身近な存在として、利用者の声が一つでも多く生かされるよう伝え、提言も行うことで、健全経営に向けた取り組みを後押ししてまいります。

議会改革の取り組みも継続してまいります。これまで、議会の模様は、西尾張シーエーティーヴィの番組でのみご覧いただくことが出来ました。昨年9月からは、議会の数日後には、インターネットを使ってパソコンでいつでも議会の模様をご覧頂けるようになりました。情報発信のチャンネルが一つ増えたことによりまして、市民の皆様在市議会をより身近な存在に感じていただけるものと確信しております。

今後、より開かれた議会を目指して立ち止まらず、改革を続けてまいります。

本年が、市民の皆様にとりまして、健康で幸せな年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

平成二十八年元旦



愛知県議会議員
中野 治美

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、希望に満ちた新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、一昨年に引き続き大村智氏と梶田隆章氏がノーベル賞を受賞されました。また、地元愛知で、50年ぶりの国産旅客機MRJが青空に飛び立ち、初飛行を成功させました。いずれのニュースでも、「継続は力なり」を実感させられました。一方、世界各地でテロに関する出来事が多いと感じられる年でもあり、世界平和を願わずにはいられません。

近年自然災害による被害が、日本各地で発生しております。昨年は、鬼怒川の堤防決壊により、流域に甚大な被害が発生いたしました。私たちの地域にとつても、洪水対策や、大規模地震による津波や液状化対策は、急務であります。日光川水閘門の改築や、排水機場・排水路等の整備を進めるとともに、災害発生時に皆様の大切な命を守るため、海部津島地域において、中・長期に避難できる基幹的広域防災拠点の整備を進めてま

いります。

また、尾張地域は2015年頃をピークとして人口減少社会に移行していきます。人口の変動を念頭に置きながら、男女や障がいの有無を問わず、若者から高齢者まですべての人が、それぞれの場で社会の支え手として活躍していくための人づくり、社会づくりに取り組んでまいります。

2020年の東京オリンピック、2027年度のリニア中央新幹線の東京―名古屋間開業により、交流圏が大幅に拡大し、国土構造も大きく変化していきます。津島市にとつては、名古屋市の西に位置し岐阜・三重とも繋がる交通の拠点であるという地域の強みを生かし、将来を見据えた戦略的な地域づくりが求められます。主要地方道名古屋津島線バイパスは、名古屋市と海部津島地域を結ぶ主要幹線であり、全線の早期整備を進めてまいります。

愛知・津島のため、一層力を注いでまいりますので、皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

本年が皆様にとりまして健康で幸せな年でありませう、心よりお祈り申し上げます。

平成二十八年元旦